

令和2年度

第15回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和2年11月9日（月）
開会13時35分 閉会14時13分

場 所 教育委員室

令和2年度
第15回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 教職員の懲戒処分について

(2) 報 告

① 科学の甲子園ジュニア大分県大会の結果について

② 科学の甲子園大分県大会の結果について

③ 令和3年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について

(3) 協 議

① 令和3年度大分県立学校実習助手採用選考試験について

(4) その他

【内 容】

1 出席者

委 員	教育長	工 藤 利 明
	委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
	委 員	岩 崎 哲 朗
	委 員	高 橋 幹 雄
	委 員	鈴 木 恵 代
	委 員	岩 武 茂 代
事務局	理事兼教育次長	法華津 敏 郎
	教育次長	久保田 圭 二
	教育次長	米 持 武 彦
	参事監兼教育人事課長	渡 辺 登
	教育改革・企画課長	中 村 崇 志
	義務教育課長兼幼児教育センター所長	内 海 真理子
	高校教育課長	三 浦 一 雄
	教育人事課 採用試験・免許管理監	戸 上 健 治
	教育改革・企画課 主幹 (総括)	門 野 秀 一
	教育改革・企画課 主査	末 松 敬 雅

2 傍聴人

2 名

開会・点呼

(工藤教育長)

それでは、委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、議題ごとに、関係課長のみ入室します。

(工藤教育長)

ただ今から令和2年度第15回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(工藤教育長)

本日の議事録の署名については、岩武委員にお願いしたいと思います。

会期の決定

(工藤教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は14時10分を予定していますので、よろしく申し上げます。

議 事

(工藤教育長)

始めに、会議は原則として公開することとなっておりますが、第1号議案及び協議①は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします

(採 決) 全員挙手

(工藤教育長)

それでは、第1号議案及び協議①は、非公開といたします。

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

【報 告】

① 科学の甲子園ジュニア大分県大会の結果について

(3課〔教育改革・企画課、義務教育課、高校教育課〕入室)

(工藤教育長)

それでは、報告第1号「科学の甲子園ジュニア大分県大会の結果について」義務教育課長から説明をしてください。

(内海義務教育課長兼幼児教育センター所長)

資料1ページをご覧ください。

10月24日(土)に県教育センターで「令和2年度科学の甲子園ジュニア大分県大会」を開催しました。その結果等について報告します。

本大会は、過去7年間、全国大会の予選という位置づけで実施してきましたが、今年度は、新型コロナウイルス感染症に伴う休校が長期化したことにより、全国大会の開催は中止となりました。代わりにオンラインによるエキシビジョン大会が12月に予定されています。

そのような状況ですが、県内の科学好きの中学生が一堂に会し、未知の課題に挑戦する探究心や友だちと協働して課題解決に取り組む、この大会の意義を重要なものと捉え、県独自で大会を開催したものです。

参加者は、資料にありますように7校10チーム、60名でした。

「内容」の欄をご覧ください。今大会のテーマは宇宙です。競技は実技のみで「ピンポイント着地を狙え!」。これは、12月に帰還する「はやぶさ2」をイメージした競技です。はがきサイズの用紙5枚を使って、ターゲットマーカーと探査機を制作し、2つを教育センターのらせん階段を使って3階から投下します。着地点の中心を目がけて、ターゲットマーカーはできるだけ速く、探査機はできるだけゆっくりと着陸する性能が求められます。競技は、ターゲットマーカーと探査機がどれだけ中心近くに着陸できたか、その中心からの距離と、着陸するまでの時間の差の大きさの2点で競います。この課題は、事前に参加校に提示しており、当日作成に使う用紙と同じもの100枚も提供しました。大会までに各学校とも、いくつものターゲットマーカー、探査機をつくって準備してきました。写真は、今大会で2番目にゆっくり着陸した大分市立大東中学校の探査機が落下

している様子です。

競技の後は、株式会社みんそら代表取締役の高山久信さんから「知っているようで、知らない宇宙と宇宙開発」と題した講演をいただきました。講演では、来年、宇宙技術及び科学の国際シンポジウム（I S T S）が別府市で開催されることや、2022年には、大分空港からロケットが打ち上げられる予定であること、今後様々な宇宙産業が展開されるだろうということにも触れられ、生徒に大分県を誇らしく感じる気持ちや夢を抱かせる内容となりました。

「結果」をご覧ください。今年度は、大分大学教育学部附属中学校Aチームが優勝しました。

今年度、公立学校は入賞を逃しましたが、ここに取り上げている感想は、いずれも公立学校の生徒が書いたものです。

左上の感想には「科学だけでなく友だちと協力する力をつけられたと思う。失敗したときに『どこが悪かったのか』と考え、改善してよりよくしたり、本番で成功するか不安な時がとても楽しく、仲間ともっと科学について学んでいきたいと思いました」とあります。このような内容が他にもたくさん見られました。答えのない課題に対し、本などで調べたり、友だちと議論したりしながら試行錯誤を繰り返し、最適解を見出だしていこうとした生徒たちの取組の様子が伝わってきました。

報告は以上です。

(工藤教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(林委員)

全県下の中学生に広げるという取組は、今後どのように展開していくのでしょうか。

(内海義務教育課長兼幼児教育センター所長)

全県下に広げていきたいと思っています。昨年度は19校37チームまで増やすことができました。

今年度は、以下の理由から参加者数が減っております。

- ・新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかわからない状況の中で募集をしたこと。
- ・部活の新人戦などに重なる日程の中で行ったこと。
- ・夏休みに準備をしていく学校が多いが、その準備の時間がとれなかったこと。
- ・1校2チームまでの参加にしたこと。

しかし、中学校の理科部会の教員が運営に携わるように取り組んでいますので、今後は、参加する生徒の数を増やしていけると考えております。

② 科学の甲子園大分県大会の結果について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(工藤教育長)

次に、報告第2号「科学の甲子園大分県大会の結果について」高校教育課長から説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

「科学の甲子園大分県大会の結果について」報告します。

資料をご覧ください。

今年度で第10回になる本大会は、科学好きの裾野の拡大、トップの伸長、将来の有為な科学系人材の育成を目的に、本年度は11月3日(火)に県教育センターで実施しました。

内容は、全国大会の競技種目に合わせて、県大会でも筆記競技、実験競技を2種類行いました。また、全競技が終了後、科学と宇宙に関する「Zoom」による講演会を実施しました。

筆記競技については、物理、化学、生物、地学、数学、情報から30点ずつ出題される問題を、6人で協働して解きます。

実験競技Ⅰは例年、科目が違いますが、今年は化学でした。実験の正確性と時間を競うもので、3人で協働して解きます。

実験競技Ⅱは、ものづくりに関する総合競技であり、3名で協働して解きます。これは1ヶ月前に各チームに公開して準備をして臨む競技です。今年の問題は「サイエンスコミュニケーション」という宇宙に関する出題でした。宇宙飛行士は、地球の基地から音声のみの指示を受けて宇宙での活動を行います。それになぞらえて、この競技では、1名が分子模型の特徴を文章のみで表現し、その文章だけを頼りに別の2名が、その分子模型を再現するというもので実施しました。

また、オンライン講演会では、ISTSのイベントでも講演をした一般社団法人Space Port Japan(スペースポートジャパン)理事の青木さんが、スペースポート大分の開港へ向けての準備状況と、今後の展望について、映像を交えて話をしてくれました。特に、大分空港がアジア初の宇宙旅行の拠点になるということで、生徒は興味深く聞いていました。

次に参加チームですが、コロナ禍の中で各校2チーム以内という制限をかけたのですが、15校27チーム197名と、資料に記載の学校から今年も多く生徒が参加しました。

次に結果をご覧ください。合計360点満点で競われたこの大会の最優秀賞は、大分上野丘高校であり283点でした。資料の右下の「参考」にあるように、2年ぶりの受賞です。昨年度優勝の大分東明高校は、1位と18点差の2位でした。また、今年は国東高校や高田高校が入賞するなど、地域の学校も健闘が目立ちました。

今後の流れとしましては、最優秀の大分上野丘高等学校が、3月19日から茨

城県つくば市で開催される全国大会に参加します。現在のところは、全国大会は実施予定ですが、新型コロナウイルス感染拡大状況によってはオンライン開催もありえると、大会本部から連絡を受けています。どのような開催の形になったとしても、大分上野丘高校が全国大会で上位に進めるよう、引き続き支援していきます。

報告は以上です。

(工藤教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(岩武委員)

実験競技Ⅱについて、生徒の出来や、課題に対する取組の状況はどのようでしたか。

(三浦高校教育課長)

上位の学校間で、大きな差はありませんでした。差がついたのは筆記競技の影響が大きかったと思います。全体としては、できている学校とそうでない学校の差はあります。

(鈴木委員)

中学校、高校の両方に言えることとして、科学に強い先生方が配属されている学校が強いのではないのでしょうか。私の子どもが通う学校に、ロボット競技に詳しい先生がいて大会に参加しましたが、出場チームがとても少ないということもありました。科学について詳しい先生の知識や経験を他の学校の先生にも共有していただき、他の学校の生徒も大会に参加できるチャンスを与えていただければと思います。

(高橋委員)

最優秀賞となった大分上野丘高校のチームが283点という結果のようですが、最下位のチームとの点差はどれくらいあるのですか。

(久保田教育次長)

最下位の学校とは、かなりの差があります。今回、実験競技Ⅱについては、満点の学校が数校あり、実験競技に対する力がついてきたと思っています。

(高橋委員)

実験競技が満点の学校もあるようですが、筆記競技の結果はどのようになっているのでしょうか。

(久保田教育次長)

筆記については、各分野で30点ずつ出題されており、合計点でチームによってかなりの差があるという状況です。同じ学校のA・Bチーム間でも差がある結果となっています。

(高橋委員)

この大会に出場するにあたって、各高校で、ある程度の準備をされているのではないかと思います。かなりの差があるということは、担当の先生の指導力の差もあるのですか。

(三浦高校教育課長)

事前に準備できる競技もあり、それについては生徒たちも準備をしています。教員の実験に関する指導力は、優れている人とそうでない人の差はあります。

このようなイベントを通して、各学校の教員には、大会で実施したような実験があるということを広めていきたいと思えます。

(高橋委員)

わかりました。次回は、あまり差が開かず生徒間で競争できるよう、よろしくお願いします。

(米持教育次長)

付け加えになりますが、数年前に、日田市内の中学校の生徒が日田高校の生徒と連携して大会への準備をして参加したという例もありました。このように、小・中学校と高校が連携するような取組も増えてきていると思っています。

③ 令和3年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(工藤教育長)

次に、報告第3号「令和3年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について」高校教育課長から説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

「令和3年度大分県立海洋科学高等学校専攻科の生徒募集について」報告します。

資料をご覧ください。

「1 目的」については、将来、大型船舶の幹部乗組員としての資質を養成するとともに、3級海技士以上の国家試験に必要な要件を付与することとしています。

す。海洋科学高校は国土交通省から海技士の養成施設として指定されていることから、3級海技士取得のために必要な乗船履歴の3年間で1年3ヶ月に短縮され、高校3年間で合わせて、5年間の在学中に資格取得のための乗船履歴は担保されます。更に筆記試験が免除され、専攻科卒業後は、口述試験に合格することで、3級海技士免状を取得することができます。海技士免状取得により、国内船の船長等の幹部職員として乗船することが可能となります。

「2 募集学科及び人数」については、海洋科の航海コース・機関コース、合わせて10名以内としております。10名の根拠としまして、共同運航実習船「翔洋丸」において、大分県・香川県の生徒の乗船定員を50名としており、そのうち本科生徒を30名、専攻科生徒を両県合わせて20名以内と設定し、平成31年度入試より、専攻科の募集人員を各県10名以内と定めています。

「3 修業年限」は2年です。

「4 応募資格」は、大分県立海洋科学高等学校海洋科の卒業生又は他の水産高等学校海洋漁業系、海洋工学系の卒業生若しくはこれと同等以上の学力があると認められる者で、資料に記載の条件に該当する者としております。

「5 出願期間」は、令和2年12月7日（月）～令和2年12月11日（金）としております。

「7 学力検査及び面接」について、検査場は大分県立海洋科学高等学校、検査日は令和3年1月13日（水）、検査内容は筆記試験と面接としております。

なお、新型コロナウイルス感染症に伴う対応として、罹患し検査日までに治癒していない者や、保健所から濃厚接触者に該当するとされ健康観察の期間内にある者については、追検査日を同年1月27日（水）に設けております。

「8 合格者の発表」については、海洋科学高校にて1月14日（木）午前9時を予定しております。追検査を実施した場合は、1月28日（木）午前9時を予定しております。

以上で、報告を終わります。

（工藤教育長）

ご質問・ご意見はありませんか。

（高橋委員）

専攻科を修了すると短期大学を卒業したのと同じ様な資格になるのですか。また、ここから大学に編入などもできるのですか。

（三浦高校教育課長）

専攻科は海技士の養成校ということで、文部科学省の管轄する学校と同じではありません。

（高橋委員）

専攻科を修了して、さらに上の資格を目指したいという人は、どのような進路

になるのですか。

(三浦高校教育課長)

専攻科から水産大学校への編入学はできないようになっています。水産大学校への編入学は、4年制大学の卒業生等が対象となりますが、欠員がある場合のみとなっており、近年は受入れがありません。

また、専攻科から大学への編入学については、受入れをする大学が少ないため、門戸を広げるように全国水産高等学校長協会が取り組んでいる状況です。

(林委員)

新型コロナウイルス感染症の対策については、今後、高校入試でも同じような対応になるのでしょうか。

(三浦高校教育課長)

高校入試に係る新型コロナウイルス感染症対策については、これから細かい部分を詰めていきますが、「三密」を避ける状況にするという対応は同じと考えています。

(林委員)

実際に新型コロナウイルス感染症に罹患した場合は、同じような対応になるのでしょうか。

(三浦高校教育課長)

そのとおりです。高校入試も追検査を設定しておりますので、罹患したり濃厚接触だったりする場合には追検査を受けるような方向で検討しています。

(工藤教育長)

県外から受験する生徒についての説明をしてください。

(三浦高校教育課長)

専攻科を受験する生徒について、特に県外出身者を何人、県内出身者を何人にするという明確な取り決めはしていない状況です。

(工藤教育長)

今は定員になかなか満たない状況ですが、今後どのような状況になるかわからないので、よく整理をしておく必要があると思います。

(工藤教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開で何かありますか。

(工藤教育長)

では、非公開の議事を行いますので、傍聴人は退出をしてください

【議案】

第1号議案 教職員の懲戒処分について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案「教職員の懲戒処分について」提案しますので、教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(工藤教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(工藤教育長)

それでは、第1号議案の承認についてお諮りします。第1号議案について承認される委員は挙手をお願いします。

(採決)

(工藤教育長)

第1号議案については、提案どおり承認します。

【協 議】

① 令和3年度大分県立学校実習助手採用選考試験について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(工藤教育長)

次に、協議第1号「令和3年度大分県立学校実習助手採用選考試験について」
教育人事課長から説明をしてください。

(説 明)

(工藤教育長)

ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(工藤教育長)

それでは、今回の協議結果を踏まえて、準備を進めていきたいと思えます。

(工藤教育長)

最後にその他何かありますか。

ないようですので、これで令和2年度第15回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。